

QUICK START GUIDE

Pulse 4K - Ref. PLS-4K



ANALOG WAY®
Pioneer in Analog, Leader in Digital

Analog Way 社の Pulse 4K をご購入頂きましてありがとうございます。

以下のシンプルな手順の通りに作業することで 4K60 マルチレイヤー・ビデオミキサー / シームレス・プレゼンテーションスイッチャーをすぐに設定して使用できるようになります。

梱包内容

- Pulse 4K (PLS-4K) ×1
- 電源コード ×1
- イーサネットクロスケーブル ×1 (デバイス制御用)
- ウェブベースのリモートコントロールソフトウェア ×1 (機械本体に実装済み)
- ラックマウントキット ×1 (この部品は梱包用発泡材に包まれています)
- ユーザーマニュアル ×1 (PDF バージョン) *
- クイックスタートガイド ×1*

*) ユーザーマニュアルとクイックスタートガイドの最新版 [英語] は www.analogway.com から入手できます。

製品登録の
お願い

ファームウェアの新バージョンについての連絡を受けるには Analog Way 製品登録ウェブサイトアクセスして登録を行ってください：<http://bit.ly/AW-Register>

注意！

不適切なラックマウントに起因する
損傷は製品保証外です。

QUICK SETUP & OPERATION

Pulse 4K は Web RCS やフロントパネルからフルに操作できます。このガイドではフロントパネルのコントロール類を使う手順を解説します。

本機設定をデフォルト値にリセットする：

使用開始するにあたって本機を工場設定にリセットしたい場合もあるでしょう。スクロールノブを使って **Control → Reset to default values → Yes** を選んでください。

動作モード：

Pulse 4K はミキサーモードかマトリクスモードのいずれかに設定できます。

- ミキサーモードはミキシングレイヤーが 2 つあるスクリーン 1 個と Aux スクリーン 1 個を管理します。

- マトリクスモードはミキシングレイヤーをそれぞれ 1 つ持つスクリーンを 2 個管理します。

Pulse 4K のスクリーンには次のように呼ばれるレイヤーがあります：

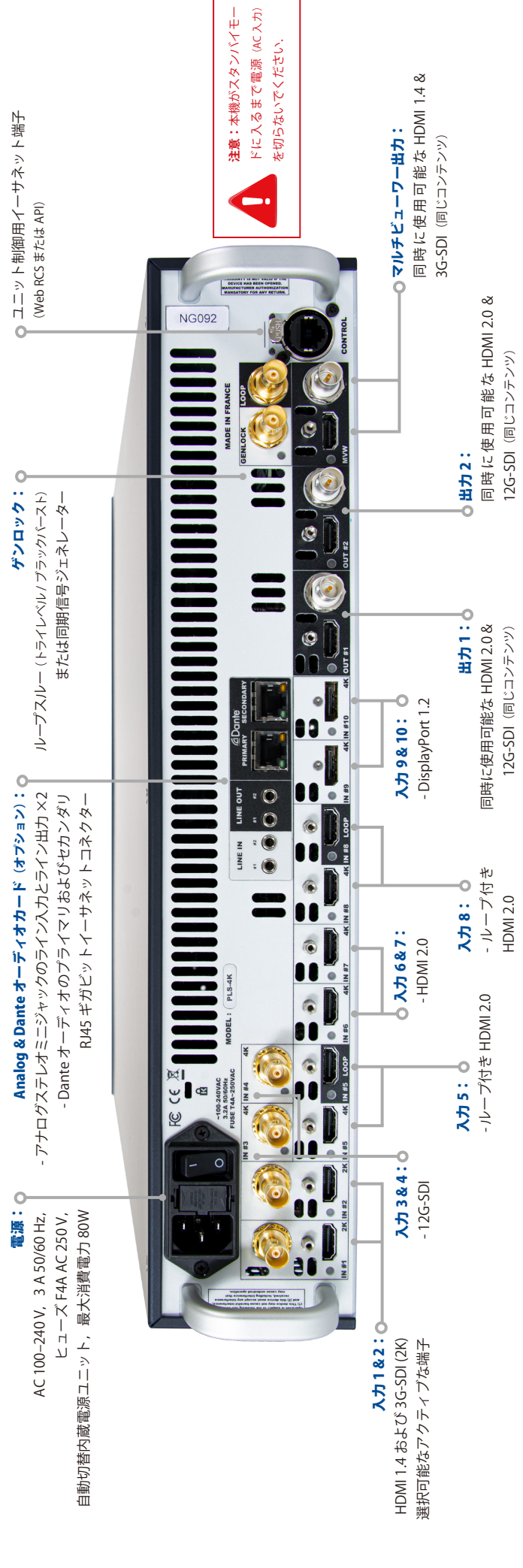
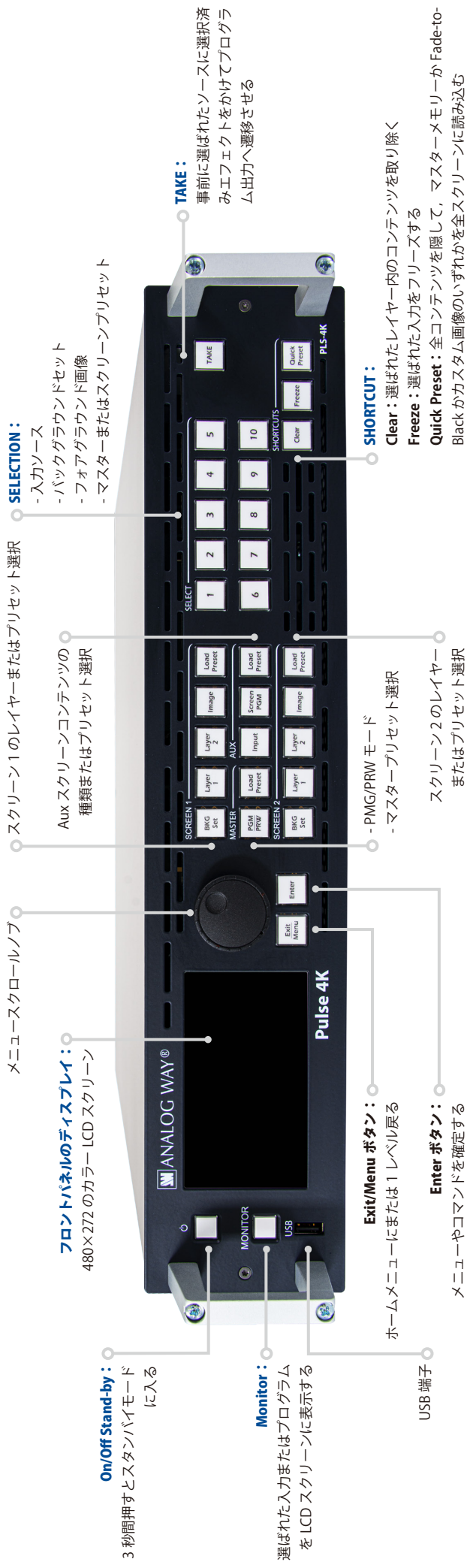
バックグラウンドレイヤー (サイズ変更できません)、レイヤー 1、レイヤー 2、フォアグラウンドレイヤー。Aux スクリーンはサイズ変更できないレイヤー 1 つを持ちます。

重要：メニュー項目を選ぶことだけでは同項目はその値に設定されません。メニュー項目を設定する際は **ENTER** ボタンを必ず押してください。

クイックスタート：

1. 本機を起動する前に入力、出力、電源、ネットワークの各ケーブルを接続してください。
2. **Inputs** を選んで各入力を設定します (ラベル、音声、クロップ等)。
3. **Inputs → Input 1** (または **2**) → **Select Active Plug** を選んで使用するアクティブな端子を選択します。
4. **Preconfig → Templates** を選択し、本機の動作モードを選択します。
5. **Preconfig → Screen Configuration** を選択し、スクリーンのラベルを入力したりスクリーンの音声モードを設定したりテストパターンを表示するスクリーンと Aux. スクリーンを選択します。
6. **Outputs → Format** を選択し、接続されるディスプレイのネイティブ解像度と一致する出力解像度を設定します。例えば **Outputs → Output 1 → Format → Internal rate → UHDTV 2160p → 60 Hz**。
7. **Images → Import** を選択し、USB ドライブから本機の画像ライブラリーに画像を転送します。
8. **Images → BKG/FRG Images** を選択し、スクリーンを選択します。ライブラリーの画像を各スクリーン内のバックグラウンド画像とフォアグラウンド画像用の画像スロットに割り当てます。
9. **Preconfig → Background Set Configuration** を選択し、スクリーンとバックグラウンドセットを選択します。Crop モードとバックグラウンドコンテンツ (バックグラウンド画像がライブ入力) を設定します。
10. **Multiviewer (MVW) → Timers** を選んでカレントタイムやカウントダウンやストップウォッチのタイマーソースを作ります。
11. **MVW** を選んでテンプレートを選ぶか、入力やプレビュースクリーン、プログラムスクリーン、タイマーを割り当てて、ウィジェットを手動で配置します。

PULSE 4K - REF. PLS-4K / 前面および背面パネルの各部の名称と機能



操作の概要

ボタンのカラーガイド

緑色点灯:

- プレビューモードがアクティブ
- エレメントまたは機能が利用可能
- レイヤーまたは Aux エレメントが空
- 入力が接続されており利用可能

薄緑色点灯:

- 入力は接続されていない

緑色点滅:

- スクリーンレイヤーまたは読み込まれたプリセットが現在選ばれていて空である

橙色点灯:

- レイヤーまたは Aux エレメントにはソースがある
- 選択内で «Select» エレメントが現在使われている

橙色点滅:

- スクリーンレイヤーまたは読み込まれたプリセットが現在選ばれていて、ソースを持っている

赤色点灯:

- プログラムモードがアクティブ
- テイクが利用可能

赤色点滅:

- テイクが進行中

フロントパネルのメニュー

Status: 本機の状態と設定をチェックします (出力, スクリーン, 入力, Dante, ライブラリー等).

Memories: マスター, スクリーン, レイヤー, マルチビューワーの各メモリーを保存 / 読み込み / 削除します.

Live: スクリーンレイヤーとトランジションの設定.

MWV (MultiViewer): テンプレートを選択し, タイマーとウィジェットを設定します.

Audio: レートのモードを設定し, Dante オーディオと音声ルーティングを管理します.

Control: 本機の諸設定 (Network, Firmware update, Front panel, Factory reset 等).

Services: 温度とファンの状態のチェック, 技術サポート向けの情報のチェック, コンフィギュレーションのエクスポート等を行います.

Extra: カスタムフォーマットと EDID を管理します.

Images: 画像を本機にインポートします. その後, それらの画像をバックグラウンドまたはフォアグラウンドレイヤー内で使われる画像プリセットとして読み込みます.

Inputs: 入力信号 (解像度とレート), バターン, 画像調節, クロッピングとキーイングを設定します. 入力をプリースたり真つ暗にすることもできます.

Outputs: 出力フォーマット, AOI, HDCP, バターン, 画像調節を設定します.

Preconfig: 動作モードを選んで, スクリーンラベルや自動モード, バターン, バックグラウンドセットを設定します.

Web RCS を使う

Pulse 4K は標準的なイーサネット LAN ネットワークキーングをいいます. Web RCS にアクセスするにはイーサネットケーブルを使ってコンピューターを **Pulse 4K** に接続し, コンピューターの電源を入れ, インターネットブラウザを起動します (Google Chrome をお薦めします).

このインターネットブラウザに, フロントパネルのスクリーンが表示する **Pulse 4K** の IP アドレスを入力します (デフォルトで **192.168.2.140**).

接続が始まります.

コンピューターが DHCP クライアント (自動 IP 検出) モードに設定されていることがしばしばあります. 接続できるようにするには使用するコンピューター上の IP アドレス設定を変更する必要がありますかも知れません. これらの設定は使用する LAN ネットワークアダプターのプロパティ内にあり, オペレーティングシステムによって異なります.

Pulse 4K のデフォルトの IP アドレスは **192.168.2.140** で, ネットマスクは **255.255.255.0** です. そのため, 使用するコンピューターの静的 IP アドレス **192.168.2.100** とネットマスク **255.255.255.0** を割り当てることができ, 接続が可能になるはずですが.

詳しくはユーザーマニュアルを参照するか Analog Way の技術サポートにお問い合わせください.

アップデートとカスタムフォーマット

ファームウェアのアップデート

- 最新の Midra™ 4K ファームウェアを www.ana.logway.com からダウンロードします.
- このアップデートファイルを USB ドライブに入れます.
- その USB ドライブをフロントパネルに接続します.
- アップデートファイルは自動的に検出されます. 検出されない場合は **Control** → **USB Host** → **Scan for Updater** を選んでください.
- アップデートファイルが抽出されます.
- 新しいファームウェアをインストールしてください.

カスタムフォーマットを使う

- Extras** → **Custom Formats** → **Create New Format** を選択し, フレームレートや H Active, V Active, Reduced Blanking 等を設定します.
- カスタムフォーマットのパラメーターを検証するために **Check** を選択します.
- 必要に応じて **Edit Custom Format Label** を選んでラベルを入力します.
- Save as** を選んでメモリースロットを選択します.

作成されたカスタムフォーマットは出力フォーマットリストの最上部分から利用できます.

音声設定

グローバルな音声設定

- Audio** → **Global settings** を選んでレートとトランジションディレイを設定します.
- Audio** → **Outputs** を選んで音声のルーティング状態をチェックします.
- 設定 (ソース, ディレイ, バランス, レベル, バターン等) にアクセスする出力を選択します.

出力音声ソースを設定する

- Audio** → **Outputs** を選択し, 出力を選択します.
 - スクリーン出力の場合は **Mode** を選んでソースを選択します.
 - + デフォルトで **Auto** が設定されており, それはスクリーンの音声モードに従います.
 - + ダイレクトルーティング用に入力を選択します.
 - Dante 出力の場合は **Mode** を選んでマトリクスのステータスをチェックし, ソースを選んでください.
 - + **Direct routing** を選択し, 音声ソースを選択します.
 - + あるいは **Follow Screen** を選んでスクリーンを選択します.

スクリーンの音声設定を行う

- Preconfig** → **Screen Configuration** → **Screen X** → **Audio mode** と選択し, 音声モードを選択します:
 - **Direct routing** を選択し, ソースを選択します.
 - **Follow live layer content** を選択し, 音声を読み込むレイヤーを選択します.
 - **Live** → **Screen** → **Audio** からソースを設定するには **Follow audio layer** を選択します.

HDCP 暗号化を停止する

HDCP 暗号化は HDMI および DisplayPort 入出力で停止できます. これは使用するコンピューターがスウィッチャーの HDCP 適合を検出してこのコンピューターからの信号を暗号化することでコンテンツを保護している場合に便利です. この機能はこの特定の HDMI/DP 入力についてのみ HDCP 暗号化を停止します. 使用するソースから HDCP コンテンツを使いたい場合は HDCP 対応のモニターやプロジェクターのみをお使いください. 非対応機器を接続した場合は出力映像が停止される可能性があります.

スクリーンは HDCP 入力映像を表示せずに真つ暗になります. あるいは関連するレイヤーは灰色を出力するようになります. 出力ステータスは出力についての全情報をリアルタイムで提供します. この機能は, 特に長いケーブルで HDCP を使用して通信がうまく処理されているかどうかを確認する際に便利です.

HDMI または DisplayPort 入出力で HDCP を停止する

Inputs → **Input X** → **HDMI settings** (または **DisplayPort settings**) → **HDCP** → **None** を選んでください.

HDMI 出力上で HDCP を停止する

Outputs → **Output X** → **Plug settings** → **HDMI** → **HDCP detection** → **Disable** を選んでください.

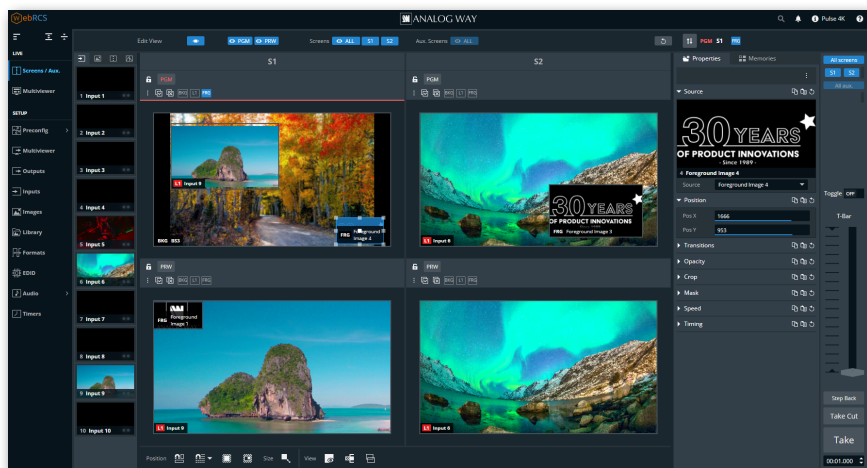
コンテンツをレイヤーに割り当てる、メモリーを作る

- MASTER エリア内で PGM/PRW キーを押してプログラムスクリーンかプレビュースクリーンで作業するかを選択します。
- マトリクスモードの場合は各 SCREEN エリア内で BKG Set を押してバックグラウンドレイヤーを選択し（または Image を押してフォアグラウンド画像を選択し）、次いで SELECT エリア内の数字キーを押して対応するバックグラウンドセット（またはフォアグラウンド画像）を割り当てます。
- 各 SCREEN エリア内で Layer 1 または Layer 2 をクリックし（点滅します）、次いで SELECT エリア内の数字キーを押して対応するライブ入力を割り当てます。
- **ミキサーモード**では SCREEN 1 エリアはマトリクスモードの場合と同様に動作しますが SCREEN 2 エリアは停止されます。
AUX エリア内で Input または Screen PGM を押してソースの種類を選択し、次いで SELECT エリア内の数字キーを押して対応するコンテンツを Aux レイヤーに割り当てます。
- さらなるレイヤー設定（位置、大きさ、トランジション等）を行うには Live → Screen 1 → Layer X を選んでください。
- レイヤーをクリアするには、レイヤーを選んでから SHORTCUTS エリア内の CLEAR を押します。
- TAKE を押してソースをプレビューからプログラム出力へ遷移させます。

TIP:各テイクの際にプレビューとプログラムの間で交互に切り替えるには Live → Screen 1 → Global → Preset Toggle 内でそれを稼動してください。

- Memories を選択し、マスター、スクリーン、Aux スクリーン、マルチビューワーの各メモリーを作ります。
- Memories を選択し、あるいは Load Preset キーを押し、次いで SELECT エリア内の数字キーを押してメモリーを読み込みます。

Midra™ 4K 用 Web RCS



Inspired by LivePremier

LivePremier ユーザーにはお馴染みの Midra™ 4K 用 Web RCS はコンフィギュレーションを設定し、ライブプレゼンテーションを管理する最も簡単な手段です。

Midra™ 4K 用 Web RCS は本機に実装されており、ソフトウェアのインストールを必要としません。

詳しい手順については Midra™ 4K ユニットのユーザーマニュアルを参照してください。

保証とサービス

本 Analog Way 製品には購入日から3年間の無償保証が伴います（パーツについては3年保証、技術料は1年間保証。往復の送料はご負担ください）。コネクタ等のパーツ破損は本保証の範囲外です。

この保証はユーザー側の不注意や改造、電気的サージ、誤使用（落下/衝撃）、またその他の異常な損傷に起因する不具合は対象としません。万一誤動作した場合はサービスについて取り扱い代理店か Analog Way 社にお問い合わせください。

Pulse 4K の詳細な情報について

さらに詳しい情報や操作手順については Midra™ 4K ユニットのユーザーマニュアルを参照するか、Analog Way 社のウェブサイト www.analogway.com をご覧ください。



Analog Way 社日本総代理店 ミックスウェーブ株式会社

〒154-0014 東京都世田谷区新町 2-3-2-3F Tel: 03-6804-1681 Email: sales@mixwave.co.jp Fax: 03-5450-8201 Web: http://www.mixwave.co.jp

日本語版：本書はフランス Analog Way 社の許諾を得て同社の『Pulse 4K Quick Start Guide (2020年12月発行)』をミックスウェーブ株式会社が翻訳・編集したものです。無断復写・転載を禁じます。仕様・外観等は予告なく変更されることがあります。©2020, Analog Way, all rights reserved - 15-DEC-2020 Japanese Edition, © 2021 Mix Wave, Inc. All rights reserved.